

平成26年度第1回 福岡市美術館協議会 会議録

|     |                                                                                  |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 平成26年7月25日 (金) 14:00~16:00                                                       |
| 場 所 | 福岡市美術館 教養講座室                                                                     |
| 出席者 | 協議会委員：後藤委員外 計15名<br>福岡市美術館：錦織館長外 計10名<br>福岡アジア美術館：村上館長外 計8名                      |
| 議題  | (1) 正副会長の選任<br>(2) 福岡市美術館平成25年度事業報告について<br>(3) 福岡アジア美術館平成25年度事業報告について<br>(4) その他 |

1 開会

2 委員及び職員紹介 (内容は省略)

3 館長挨拶 (内容は省略)

錦織福岡市美術館館長挨拶

4 議題

(1) 正副会長の選任

事務局： 選任については、福岡市美術館条例施行規則第23条第2項の規定により、委員の互選により定めることになっているため、自薦、他薦を含め、推薦をお願いしたい。

委員： 事務局から提案があればお願いしたい。

事務局： 会長として後藤委員を、副会長として龍委員を推薦したい。

(反対意見なし 決定)

事務局： 後の進行について後藤会長へお願いします。

(2) 福岡市美術館平成25年度事業報告について

事務局により報告

(3) 福岡アジア美術館平成25年度事業報告について

事務局により報告

会長： 昨年度の福岡市美術館、それからアジア美術館の事業報告をしていただき、両館とも大変精力的に事業を行っておられることが伝わってきました。内容がかなり多岐にわたっていたと思います。アジア美術館、福岡市美術館の報告について何か委員の方でお気づきの点がありましたら、自由に質問をしていただけたらと思います。今回は18名の委員の中の6名が新しく代わったということで、委員のうちの3分の1がリニューアルしました。様々な分野、ご経歴を持たれる方

が増えて、新鮮な目で2つの美術館の活動をご覧いただき、いろんな疑問点、共感できる点等がございましたら率直にご意見を伺えればと思います。

委員： 今回、25年度のアジア美術館、福岡市美術館の様々な企画のレポートを聞かせていただきましたが、なぜここに音楽領域、あるいは演劇領域、そういった領域の企画、あるいは何か実践がないのか、非常に疑問に感じました。今後は、もっと多領域を活性化するような企画を増やしてほしいと同時に、僕みたいな音楽と美術の領域をまたいでいる者が、何らかの実践のお手伝いもさせていただければと考えます。芸能とアートが一体化した企画展を今後企画されてはどうかと思います。

会長： ありがとうございます。これは学芸員のテリトリーの問題というのもあると思いますが、いわゆるダンスやパフォーマンスや民族音楽などの美術館における展開というものに関して、アジア美術館、そして福岡市美術館に何かお考えがあれば簡単なコメントで構いませんのでどなたか。

事務局： さきほどの意見ですけれども、アジア美術館では特にトリエンナーレやレジデンスでもサウンド関係の作家は何度か紹介したことはあります。前回のトリエンナーレで台湾のヤオ・ジョンハンという人がいたんですけど、この人はサウンドとビジュアルを使った作品を制作しています。ただ、いわゆるそれは現代美術というものにひっかかってくる人たちなので、それ以外であるとなかなか手が伸ばせないでおります。ただ演劇に関して言いますと、今年のトリエンナーレではWATAGATA福岡釜山アートネットワークを招待しており、一部で釜山と福岡の演劇のプロジェクトが現在進行中なので、新しい領域に展開していけたらと思っております。あと、昔のアジア美術展の時はアジア太平洋フェスティバルとかがありませんでしたが、今は福岡市はアジア太平洋フェスティバルですとかアジア映画祭ですとか、それから福岡市文化芸術振興財団が行っていますダンスパフォーマンスですとか、様々な分かれる形で進行していますので、昔のように何でもかんでもアジア美術展でやるということはありませんでした。しかし、例えば財団が行っているダンスのイベントや音楽のコンサート等を当館で開催していただくなど例はありますので、そのような形で展開していけたらと思います。

会長： ありがとうございます。では、福岡市美術館お願いします。

事務局： 財団などで音楽系、それからダンス系のワークショップなどを、市美術館やアジア美術館、それから博物館も含めた形で展開しているという近年の事情がございます。これからは、例えば現代美術というような文脈だけではなくて、多領域の場の提供から始めて、そのコラボレーション、それからさらに新しい領域への発展というようなことも含めて、積極的に取り組んでまいりたいと思っております。

会長： ありがとうございます。例えば、学芸だけでは専門的に手一杯ということであれば、展覧会のテーマに応じてダンスのゲストキュレーター等を導入して、コラボするというようなことも、将来考えられるかと思いました。具体的に音楽関係の話題ができましたけど、他の委員の方々で何か

ご意見はございませんか。

副会長： 音楽ということではありませんけど、演劇の分野では、友人に台湾の古典演劇や日本の植民地時代の日本語による演劇の専門で福岡大学の教授がおります。そういった人たちをゲストとして呼べるのであれば、できるのではと思います。

会長： 福岡は十分そういう潜在的な能力を秘めているという、確かにその通りだと思います。ぜひ今後企画があればそういうところにも、ちょっと気をまわしていただくと、より福岡市の美術館の企画が充実すると思います。私の方から、福岡市美術館の昨年度のアールブリュットジャポネは個人的には何度か訪れまして、非常に感銘を受けました。この展覧会に、実は私の西南学院大学の2クラス分の学生を150名くらい連れてきたんですけど、これはすごく衝撃的でしたね。まず、こういうアートがあること自体、彼ら彼女らは初めての体験だったみたいで、終わった後、僕のところにも個人的にどうだったこうだったと言いに来た学生や、卒論のテーマがこのアールブリュットになったという学生もいました。それくらい衝撃的な展覧会の体験を会場でやれたなと思いました。やはりその地元でこういう形で直接若い人たちが体験できたというのは非常によかったです。それからアジア美術館に関しましては「官展に見る近代美術」は歴史の結晶というものをきっちり積み上げて、説得力のあるいい展覧会だったと思います。アジアの官展系の美術という、様々な問題を抱える歴史を振り返る展覧会には本当に敬意を表したいと思いました。

委員： 今後の課題として、集客の問題があると思います。担当の人を置いて、どういうふうに産業化して集客していくか。そういうことも考えていいのかなというふうに思います。

事務局： 福岡市は三年前に経済観光文化局という新しい局を作って、教育委員会から三館含め、埋蔵文化財なども移管したという過程には、そうした産業化ということがあるからです。ただ、あくまでもやはり、美術館や博物館は社会教育施設としての使命が根本にありましてそれが大事だと思っております。結果として観光産業への寄与と言いますか、集客の結果を求められているのも現代の美術館の宿命であるという風に思っております。そうした根幹的な使命と、それから現代特有の要求、時代の要求をどうやって両立させるかというところが、これからの美術館や博物館の一番大きな課題であるという風にとらえております。そのためには、学芸もそうなんですけど、むしろ美術館や博物館をいったいこの行政全体の中で、この地域全体の中でどういう位置づけをするのかというところを大きな視点から議論していくことも私は必要だと思っております。学芸一人の力というもの是非常に微々たるものではありますけど、そうした行政も含めた地域全体の考え方や方向性というようなものが、人だけではなくて例えば、活動の根幹になる予算を動かしていくのではないかとこの風にも考えております。

委員： アートの産業化は今よく叫ばれていますけど、そのことではなくてアートマネジメントをどうしていくかということだと思います。例えば、普及活動でいいと思ったのは施設にアジア美術館の作品を展示するとか。アートを普及していくのは、イベントをやるということではなくて、展示

して、頻繁に見せるということだと思います。だから、ここにいらっしゃる委員の方は、職場に帰ったり、色々なところに行って、作品を展示するというのをやる。そのためにどうしたら美術館から絵を借りられるのか、貸し出せるのか、それがマネジメントになってきますから、その辺を強化してもらいたい。事務局が言ったこととちょっと違うかもしれないので弁解させていただきます。

会長： ありがとうございます。しかし、アートマネジメントという言葉だけをとれば福岡市美術館もアジア美術館もかなり健闘しているんじゃないかなと個人的には思っております。今ご意見にありましたけど、こういうご意見も反映しながら、アジア美術館お願いします。

事務局： 今のご指摘に関して、先ほど触れなかったことでちょっと興味深いことがあります。お手元の資料の19ページの昨年の入場者数を見ていただきたいのですが、先ほども言いましたように、34万人という合計の記録を達成したんですが、常設展の入場者に関しては24年度より25年度の方が少ないんですね。つまり単に一時的にお客さんに来てもらうという手だったら色々な手があります。福岡市美術館と同じことをやってもしょうがないんですけど、それと違う手であっても色々な手があります。ただ、やっぱり一時的に特別企画展で増やすよりも、まずリピーターを増やしたいし、やっぱり根幹は常設展の入場者を増やすことが本質的な集客のプロジェクトとしてはそういうことかなと思います。先ほど事務局側が言われたことに私もほとんど同じ意見なんですけど、ただそれを若干言い換えますと、アジア美術館に日本、世界の人が知っているアーティストの作品があるわけではないので、同じように、広く浅くやる集客をやってもまず効果がないと思います。それよりは非常に特殊な美術館ですので、特殊を活かした、ターゲットをしばった集客活動が良いと思います。例えて言いますと、一つは外国人の観光客が急増したというデータがありまして、これはタイとマレーシアのビザが自由化したことですか色々あるんですけど、ただ韓国だけが日韓関係の問題で前ほど来ていません。アジアにも世界中にもどこにもないという特性を活かして、特定の外国の観光客をターゲットにするというのはアジア美術館ならできるとかなと思います。そのようなわけでコレクション展のキャプションを全部英語にするというようなことを最近やっております。

会長： ありがとうございます。観光産業学がご専門の委員がいらっしゃるので、何か専門的な立場からご意見を頂ければと思います。

委員： 今集客の話が出てきておりますが、最近の訪日外国人の動きは、まさにその通りでございます。これから2020年に向けて、さらなる増加が期待されているわけです。そういった意味で訪日外国人というところに少し焦点を当てて話をさせていただきます。これから、福岡は非常にアジアと近いので交流が盛んになるだろうと考えています。観光でいうと、プロモーションというか、いかに認知をしていただくかということも非常に大事になってくると考えております。そういった中では、アジア美術館、市美術館を知っていただくことが大事になってくるわけですが、例え

ば、この第5回のトリエンナーレの協賛企業なんかを見させていただきますと、福岡空港にはアジアの主要な航空会社が入り込んでおります。そういったところと協賛とかの関係を結ぶ。人々は日本に来る前に、どこにいかと選択をするわけで、まずは東京や京都となってくるわけですが、これからリピーターとかが増えてくると、それ以外の所に、九州に来る可能性があるわけで、そうすると福岡は非常に観光の都市になりうるわけですね。そうすると来たとき、もしくは帰るときに福岡に滞在という人々が必ず出てくると思います。海外旅行に行きますと、その土地の美術館に訪れるという方は非常に多いと思います。そういった意味で、日本に来てから情報を出すということもあるのですが、来る前に幅広く知っていただく。全世界というのは難しいと思いますが、積極的に、アジア地区に情報を届けていくというような、プロモーション活動が何かできないものかと考えます。政府観光局関係とか市の観光課とつながりもあると思いますので、そういったところを何かつなげていくとだいぶ活かされるのではないかと思います。

会長： ありがとうございます。観光に関しては、他にも話題なり感想なりがいろいろありますので、いかがでしょうか。

委員： 福岡市美術館の活動についての感想です。私は昨年度も福岡市美術館に足を運ぶ度に思っていたのですが、大変興味深い企画展が多数開催されましたのと、教育普及の事業が大変充実してきたことが挙げられると思います。特に私は3歳の小さい子どもがおりますので、そういった子どもとでも一緒に参加できるような催しが増えたこと、そしてまたいきヨウヨウ講座のような高齢の方を対象にしたものも充実してきているということで、大変努力されているのではないかと感じております。その他に私が大変面白いと思ったのが、福岡市美術館の常設展です。「白い壁」の展覧会や、古美術でしたら「美術館でZoo」、そして近世の絵画展など、常設展に美術館の学芸員がもつカラーがそれぞれ良くできていると思いました。このリニューアルに向けて、福岡市美術館の方が色々調整をされていて何かそういった胎動を感じるようなことができ、ますます期待が膨らんでおります。

会長： ありがとうございます。期待のエールのご意見でしたが、他にありませんでしょうか。

委員： 教育普及関係の事業を以前に比べて非常に活発、精力的にさせていただいて、小学校側としても非常に感謝をしているわけでございます。私が今日の発表を聞いて一番印象に残りましたのが、屋形原特別支援学校へ絵を持って行かれるという企画です。こういった外に出す、あるいは学芸員の方がゲストティーチャーで学校に訪問していただいて子どもに授業をするとか、そういった計画とか今後のビジョンとか、あるいは運営上の諸問題、勤務条件、その辺を教えていただきたいなと思います。美術関係、造形関係の方々、専門の知識を持っていらっしゃる方々が、学校が招聘したらどの程度来ていただけるのかということを質問します。

事務局： 当館はリニューアルを控えておりまして、その間閉館いたしますので、その期間中はどんなに美術館に来たくても来られないという状況がありますので、こちらから美術館を持っていく、そう

いうツールを作るという計画はございます。リニューアル後もそれを使って、美術館の外側で、学校での活動というものも視野に入れた、アウトリーチ活動は考えております。また、今回実は生きろ美術館展というアーティストとのコラボレーションにおいて、元岡中学校、東住吉小学校にワークショップで出かけさせていただきました。最近はありませんが、以前は研究授業という枠組みではありますが、その後当館に来ていただくという条件で、学校で授業をさせていただいたことはございます。ですから可能だと考えてよろしいかと思えます。

事務局： まず学芸員側が出向いてお話をすること自体は、若干勤務時間の規制とかはあると思いますが、市立の小・中学校等でお話をすることはほぼ問題はないと思います。ただリクエストされたことがなかったということではないかと思えます。その代わりに、当館の特徴的な事業でレジデンス、アーティストの招聘事業を行っております。お手元の資料にもいくつかありますが、例えば20ページのインドのサミール・タウド、それからモンゴルのバーサンジャブ・チョジリアブ、これらの人たちは学校に出向いて行って、ワークショップをやっております。別にこれが初めてではなくかなりの回数出張ワークショップをやっております。もちろん私も学芸員もお招きいただいたら喜んでお話しさせていただきますけど、当館の特徴的な事業でかつモンゴルとかインドとか普段接することのないところのアーティストに直接話をきいてもらうというのが生徒さん達には一種の多文化、異文化と出会うというようなこともありますので、そういったところをご利用いただけたらと思います。あと実は作品を持っていくというのはかなりハードルが高いです。普通の所蔵品、特に福岡市美術館の古美術とかはまず絶対持っていけないと思います。私たちが持っているのは、例えばビデオ作品ですとか、所蔵品として登録されていない資料的なものですか、あるいは保存上比較的耐久性が高いもので、かなり限定されたものでやっていますので、これはだれでもどこでもできるというものではないです。ただ問題が、今日でお分かりいただけたと思いますが、アジア美術館には福岡市美術館のように何人も教育普及専門学芸員がいるわけではなく一人もおりませんので、教育普及については他の片手間という形でしか対応できない状況になっておりますので、その辺のところはご理解いただけたらと思います。

事務局： 今の問題に関連したことですけど、先ほど委員もそういうことおっしゃいましたけど、要するに美術館に来られない人のところに展示品を持っていくという、これはよその県でもやっております。それは離島があったり、山間地であったりして、ただ持っていける作品は限られている。福岡市なんかはそういうことをするよりも、教育委員会や県もそうですけど、バス代を補助するような制度ができてきていますので、むしろここに来てもらった方が両方にとって都合がいいという面があるだろうと思います。それからもう一つ私的な経験から言いますと、やはりできるだけ身近なところにいつも絵やそういうものがかかっていることは望ましいものだと思います。自分の所にこんな絵をかけたいとお気持ちがおありになれば、美術館はそういうものの取次はできると思いますので、閉ざされた道ではないだろうという気はします。ただ、そういう気持ちになっ

て下さらないと、こちらからセールスには行きにくいという点はあるかと思えます。

会長： ありがとうございます。時間もかなり迫ってきました。先ほど報告ありました福岡市美術館とアジア美術館の平成25年度の事業報告、ここでご承認いただくことといたしまして、その後もう少し時間をいただいて、自由に、もう少しざっくばらんに美術館等々の問題を出していただければと思います。それでは、二つの事業報告を委員の方でご承認いただける方挙手をお願いいたします。（全員挙手）はい、ありがとうございます。昨年度の事業報告は承認されました。それでは、展覧会に関係なく美術館を取り巻く様々な、皆様が常日頃から思っておられる問題を、ここで聞かせていただければと思っております。いかがでしょうか、特に今日初めて来られた委員の方を中心に。

委員： 最近、子どもたちが喉が渇いたときに、自動販売機がないことに気づきました。一階に冷水機でなく冷えていない水飲み場が一カ所だけあるんですね。自動販売機を入れることが外観を損なうとか、他の美術館でもないのか、よくわからないんですが、今は熱中症とかありますので、できればコーナーかなんか作って、ジュース類ではなくて、水で結構ですので、設置できるような自動販売機を作っていただければ助かります。

会長： この質問はご返答いただきたい。レストランとの関係とか、かなり細かな営業との関係があるのではないかと思います。

事務局： 自動販売機がほしいという声はよく聞きます。運用として、いわゆる熱中症対策というのがありますので、美術館博物館の中に入ったら一切飲み物を飲んじゃだめだということ自体が今健康面から考えても非常におかしいことだということで、一階で水を飲んでいただく分については良いでしょうと運営の仕方も変化をさせたということもございます。当然この美術館も、リニューアルに向けてそういうことは、大きな意味でのバリアフリーですとかユニバーサル化にもつながることだと思っております。ただ一番いいのは無料で冷たい水が飲めることだと思っております。自動販売機はどうしてもお金を払ってというようなことになるでしょうし、お金を持っていない生徒さんはそれを買うことができないということにもなるかもしれません。ただいまおっしゃったことは非常に重要な課題だと考えておりますので、ほんとはリニューアル以前にもできることはあると思います。今でしたら、さっき言いましたような水分の補給に関して、今までは飲食禁止みたいなサインばかりがあつて水も飲めないという雰囲気を変えていくというようなところから始めていきたいと思っております。

会長： ありがとうございます。例えば、美術館に行くときには小学生に全員に水筒を持たせるとか、そういうことはできないんですかね。

委員： それは可能ですが、どこで飲んでいいとか、私自身も困ったことがありました。そういうことで冷たい水を飲みたいときにレストランしかなく、近くには結構ないんですよ。だからミネラルウォーターの冷えたものとか、休憩するところに置いてあればと思ひまして。子どもたちも持つ

てきてる子持ってきてない子がおりまして。今最終的には設置するという方向で考えているのかよくわからないんですが。

事務局： 高齢者の飲み物の課題の方が大きくて、高齢者は必ず飲み物を持っています。展示室の中ではまずいので、どこかロビーで飲んでいただくとか、そういうことは考えていこうという話し合いはしています。ですが作品があるところでは好ましくないなので、ロビーでも今一応禁止のマークがついています。しかし、飲んでおられるのを取って注意しなくてもいいんじゃないかというような考え方もありますし、今まさに検討中でございます。

会長： 私的なことを言って恐縮ですが、私、西南学院大学の図書館長をやっております、以前図書館というのは飲食一切禁止ということで、持ち込みを禁止してたんですが、最近、蓋付きの飲み物はオーケーということで許可をしています。それから、実は新図書館が二年後にできます。ここはむしろ、例えば一階と二階のフロアは蓋付きの飲み物オーケーだし、図書館の中にカフェなんかを設けて、一階はそれをカウンターで買ってお茶を飲みながら雑誌を読んだり新聞を読むことを許可する予定です。しかし四階以上はだめだよと館内をアクティブゾーンと静謐なゾーンに分けて、使い分けをしようというのが最近の大学の図書館の一つの傾向にもなっています。以前じゃちょっと考えられないような図書館の中のそういう部分も少しご参考になればと思います。

事務局： アジア美術館につきましては、自動販売機は周りがガラス張り非常に置きにくいということがございまして、今のところは置くことは検討しておりません。ただ、展示室以外の場所での飲み物につきましては、飲まれる分には特に注意は今していない状況でございます。そして飲料と一緒にお菓子を食べたりというようなことがございますけど、食べる分につきましてはカフェコーナー、これは無料のオープンスペースのようになっておりますが、そちらの方でお食事とか食べるようなことはして下さいということでお伝えをして、そちらのほうに移動をいただいている状態です。今のところ、アジア美術館は町の中にありますので、飲料水や自動販売機はないのかというようなお問い合わせはございません。どうしてもと言われる方は一応事務室の方にお湯等用意しておりますので、そういう方には提供差し上げるということにいたしております。

会長： ありがとうございます。もうずいぶん時間をかけましたけど、ぜひ、これだけは最後に聞いておきたい、言っておきたいというご意見ありましたらどうぞ。

委員： 先ほどの教育普及関係のお話ですけれども、先ほど伺った話によりますと、福岡アジア美術館で教育普及担当専門の学芸員がいらっしゃらないということですが、今後専門の学芸員を置かれるということは予定されていないのでしょうか。方向性として考えられているのでしょうか。お聞かせいただければと思います。

事務局： アジア美術館に関しましては特に日本語のわからない外国のアーティストを呼んだり、しかも日本の普通の学校で教えていないような文化美術を紹介するので、とりわけ教育普及の専門家のスキルと知識が必要だと思っております。これまでに何回人員要求をしたことかというくらい毎回

毎回人員要求をして毎回毎回はねられてきています。今日、福岡市美術館はすごいことをやっているなと思って、驚きながら聞いていたんですけども、やはりそういう活動が美術館を通して大切であると、特にそういう教育的な配慮がないとますます先ほどの産業化の方に道が進んで行ってしまう可能性もありますので、そういう意味でも教育普及は重要だと考えております。ただ、今までになんべんもやって玉砕してきましたので、やり方を考えないといけないと思っています。必要性は十分認識しております。

委員： 福岡市美術館で、寄贈はたくさんあってこれは学芸員の方が非常に努力をされているというのはわかるんですが、活発に収集活動、特に購入を続けるということが美術館にとって非常に大事で、それが滞るとやはり将来非常にダメージとして効いてくるということを懸念しています。美術館の方はもちろん予算要求などをされていると思いますが、ぜひ収集できるような状況を作っていたらいいと思います。福岡市美術館に比べるとアジア美術館はまだ購入をしています。今年は福岡トリエンナーレがありますが、福岡市美術館時代のアジア美術展における購入、それから福岡トリエンナーレの出品作を購入してきたことが福岡アジア美術館という非常にユニークな美術館の基盤になっているわけで、今回の福岡トリエンナーレの出品作も多数購入していただければという、お願いと言いますか希望です。

委員： 常設展で、これまで何十回も見た同じ作品が似たような場所に飾ってありました。そこを埋めるような収集活動、そして常設展の充実ということを特に期待したいと思います。

委員： 収集の件を何度皆様が言っても予算を作れない事情が市の美術館にはあるのかもしれませんが、やはり行政の方に意見は反映していただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

副会長： 何年前にも私は言ったような気がするんですが、やはり特に韓国とか中国からの観光客がこの頃増えていると思います。私の知人なんか台湾から時々来るんですけど、なるべく美術館博物館に連れて行くようにしています。アジア美術館に入ると一番最初にエレベーター降りるとすぐに彫刻があります。あれ台湾の有名な作家ですよ。おーという驚きかつ喜び、そこで写真を撮り出す。ですからそういう体験はすごく大事だと思います。しかもクルーズ船が六時くらいに入ってくるんですよ。そうすると十時までどこも開いてないですよ、福岡って。じゃあ美術館に連れてくればいいじゃないかと私は思うんですけど。六時に開けるのはきついなど。何か工夫があるんじゃないかなと思います。

会長： ありがとうございます。確か長崎歴史文化博物館は修学旅行のために八時半から開け始めた聞いています。だからそういう努力をする時代になったのかなと思います。長時間ありがとうございます。委員の方々には今後もそれぞれの分野で両美術館のことを宣伝していただきまして、今以上に利用していただくようお願いして、締めめの挨拶といたします。ありがとうございました。

4 館長挨拶（内容は省略）

村上福岡アジア美術館館長挨拶

5 閉会